

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770400010		
法人名	社会福祉法人 榕樹会		
事業所名	グループホーム沖縄一条園		
所在地	沖縄県沖縄市与儀3丁目5番10号		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqyosyoCd=4770400010-00&ServiceCd=320&Type=search00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天窓があり室内は明るく、フロアは広くバリアフリーで安全に歩行出来る様に壁には手摺りが付いています。天気の良い日は園庭で体操や歌など皆で歌い、コーヒーを飲みながら、おしゃべりをしたり和やかに過ごしている。園庭の散歩しながら地域のボランティアによる季節の花々や野菜を見たり収穫が経験出来る。散歩、体操、平行棒での足上げを日課に入れ午前、午後実施している。出来る事(役割分担)が継続出来る様に盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、たたみ等取り入れられています。併設特養の喫茶店や行事等に参加し、グループホーム以外の方々とも交流できている。グループホーム沖縄一条園は家庭的雰囲気一人でひとりの生活のリズムに合ったゆったりとした生活を援助し、本人や家族の意向や出来る事を尊重しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念は開設当初に利用者職員が共に考え作成したもので、適宜見直ししながら現在も引き継がれており、職員は利用者を「自分の親」だと考えながら日々のケアに反映している。
 社会福祉法人の事業所で、同敷地内には特別養護老人ホームやデイサービスを併設している。今年度は感染症対策の為、合同の行事は開催できていないが、平常時は法人内で敬老会やボランティアサロン等のイベントが頻りに開催されている。日頃から地域との交流も多く、地域の公民館でのミニデイサービスやボランティア活動にも利用者とともに出かけたり、地域住民との合同避難訓練への参加や、事業所の庭の手入れのボランティアを受け入れるなどし、事業所の防災訓練への地域住民の協力も得られている。
 事業所内ではフロアで毎日歩行訓練が日課になっており、利用者の身体機能の維持や、掃除や洗濯、食事の準備等、利用者ができる事は継続できるように個別の介護計画を作成し、利用者が自分らしく過ごせるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の思いや意向を組み入れた理念を毎朝の申し送り時、職員皆で唱和し、職員間で共有している。利用者を母親のような気持ちで接し明るく、安らぎのある家庭作りを心がけている。	事業所の理念は開設当時に職員と利用者がともに作り上げ、利用者の言葉を組み込んだものになっている。理念について見直す機会もあったが、現在の事業所と理念が合っているため、毎朝の申し送りで職員全員で唱和し、事業所内にも掲示されている。職員は利用者が自分の親だと常に考え日々のケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館での生きデイに利用者職員が参加し、体操やゲーム、ジュウシー会等の交流。時々や地域の方々から慰問に来られ、一緒に昼食を召し上がりユンタク会に参加し交流していたが新型コロナウイルス感染防止にて現在は交流は中止している。	平常時は地域の公民館での生きデイやあて布作成のボランティア活動に月2回程度、利用者職員と一緒に参加している。地域住民から利用者への声かけや、事業所からくずもちを差し入れる等して交流している。利用者の家族でもある地域包括支援センターの職員が同法人内施設でボランティアサロンを開いたり、防災訓練に近隣のマンション住民の協力や行事の際のボランティア余興等の協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や見学、ボランティアに来られた方々に認知症の症状や個々によって対応も異なる事を分かりやすく説明し、必要時は相談にのっている。現在は、新型コロナウイルス感染防止にて現在は交流は中止している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、業務内容を常にオープンに状況を報告したり参加者からの意見や情報交換を行い要望や助言を取り入れてサービスの向上に繋げている。令和元年度第6回から新型コロナウイルス感染拡大防止にて中止になっている状況をみながら開催予定している。	平常時は2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、行政、知見者、地域代表の構成員が出席している。家族には入居時に運営推進会議について説明し、交代で出席の協力が得られている。今年度は新型コロナウイルスの影響で開催が困難だったが、11月には場所を変えて開催する等工夫している。議事録は書面で構成員に配布し、事業所内で掲示し閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に疑問や課題が発生した時や更新時窓口訪問する時に介護保険課、保護課等で対応を相談し助言を得る事が出来ている。運営推進会議や市のグループホーム連合会に参加し情報交換を行っている	運営推進会議には市担当者が毎回出席しており、市内のグループホーム連絡会にも市担当者が出席し、意見交換の機会が多い。生活保護受給の利用者の「物を取りに自宅に戻りたい」という、利用者の身体状況と自宅の環境面で困難な要望にも、生活保護担当のケースワーカーと後見人も交えて対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく職員一人ひとりが身体的、精神的弊害を理解し、拘束的廃止に向けた意識をもち、身体拘束をしないケアの実施。職員も勉強会を行っている。「身体拘束等の適正化対策委員会」を2カ月に1回、運営推進会議と一体的に設置、運営。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を2ヶ月に1回の運営推進会議を活用して運営推進会議構成員で開催している。事業所は契約時に身体拘束をしない方針を利用者・家族に説明している。職員は身体拘束について研修を受け、頻繁に帰宅したり外に出る利用者に対しては家族の協力も得ながら、利用者の気持ちに寄り添ったケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人やグループホームでの勉強会を行い、虐待とは何かを理解し、連携し認知症高齢者の尊厳を冒す事の無い様支援している。利用者の自宅や事業者内での虐待が見過ごされることが無い様、職員間の態度、言葉使いを注意し、問題点はその都度話し合い防止に努めている	職員は虐待防止について、法人内での毎年の研修やDVD学習で理解を深めている。不穏な利用者を一人の職員で長時間対応しないように管理者は気にかけて対応する職員を交代したり、暴力行為のある利用者の対応へも管理者が入りフォローするなど、日々のケアの中で職員の負担軽減を図りながら支援している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を利用している方が3名が成年後見人がついており、成年後見人の役割はある程度管理者、職員は理解し、成年後見人との連携も取れている。入院の為退所後も住所がまだ一歩園にあり、面会に行ったり郵便物を成年後見人が取りに来たりして本人の状況を知る事が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は言うまでもなく、変更や改定時も契約書や重要事項説明書に沿って説明し、不安や疑問にその都度分かりやすく説明し、理解・納得してもらえるように努め、同意・署名を得る事が出来ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、本人の状況を伝えたりグループホーム便りにて日常の活動などを報告している。又、年2回の家族会を開催し意見や要望を聞いて対応している。	利用者からは日々のケアの中で意見・要望を聞き取り、「買い物したい」との要望には事業所近くの販売機まで一緒に散歩しながらジュースを買いに出かける等要望に応えている。家族からは病院受診時や面会時に聞き取るようにしており、利用者の健康の為にヤクルトやヨーグルトなどを提供してほしいと差し入れがある場合には朝食時に提供するなど運営に反映させている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	園長や管理者は月の職員会議や毎日の申し送りに参加し、日頃から職員との意見や提案を聞く機会を設けその都度対応する様にしている。購入提案等は起案書を上げてもらい直ぐに検討、対応する様にしている。	毎朝の申し送りと月1回の職員ミーティングで職員意見や提案を聞く機会を設けている。職員からの提案で、利用者の服薬時間を考慮し、勤務者の業務内容に見直しをしたり、感染症拡大防止のために空気清浄機やマスクなどを事業所で購入した。今年度に入り、携帯電話やパソコン、タブレットの購入やWi-Fi環境の整備等、業務の効率化のための環境整備を行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が働きやすい職場環境に取り組み、介護ミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を常時設けてます。職員の健康診断、インフルエンザの予防接種も実施し健康増進に努めています。	職員は毎年1回、夜勤者は2回の健康診断を受け、毎年ストレスチェックも実施されている。今年度は休職者が多くいた為、管理者やケアマネジャーが補充で勤務に入るなど職員への負担を大きくしないように配慮され、現在は休職していた職員も復職し休暇の確保もできる体制になっている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園外での研修には交代で参加し、法人での研修が年間で計画されており、グループホームから勤務時間外の職員は参加し、参加できなかった職員にも伝達しスキルアップに努めている。令和2年4月より新型コロナウイルス感染拡大防止にて中止となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会や沖縄市グループホーム意見交換会に管理者が参加し、内容もミーティングにて報告し、改善すべきところは改善し、良い所は参考にし業務に活かしている。各事業所、持ち回りで開催し施設見学や交流も出来ている。2カ月に1回他事業所の運営推進会議にお互い参加しネットワーク作りで質の向上に取り組んでいる令和2年4月より新型コロナウイルス		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時等本人家族が不安にならない様、傾聴し困っている事や要望などを聞き取り、安心感が得られるような関係作りに努めている。体験入所等利用し、職員との信頼関係も作れる様努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、入所申込み時点からサービスの利用状況や家族の困っている事、苦労などをじっくり傾聴し信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談(電話、来所)時、本人の状態、家族の思い等を聞き必要性を見極めその人に合った支援に繋がれる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を母親の様な気持ちで接するとおのずから優しさが出る。常に自分だったらされたくない事は相手にもしない様にとの気持ちで接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、一緒にお茶を飲みながら会話したり、レク等と一緒に参加している。行事にも参加してもらい関わりを多く持てるように努めている。病院受診は家族が行い家族と外出等気分転換が図れるよう支援している。令和2年4月より新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会中止となるが現在は窓口にて面会出来る様支援している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のある公民館での生デイ、行事に管理者と継続して参加している。家族、知人、友人の面会や外出等馴染の人との関係が途切れない様支援している。現在は支援出来ない、令和2年4月より新型コロナウイルス感染拡大防止の為。	平常時は利用者の地元の公民館の活動に月2回程度、職員も付き添い参加し、活動参加者との会話を楽しむ等、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。知人・友人の急な面会にも利用者を確認しながら対応している。平常時は法人内で週1回お茶会が開催される為、希望する利用者は職員と一緒に参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の食事やお茶の時間は職員も一緒に座り、皆でおしゃべりを行う。又、皆で歌、レクが出来る環境づくりに務め、席の配置も人間関係が上手く行くように考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養入所になった家族と特養の行事で会う事があり本人の状態を聞いたり、直接本人と会話をしたりグループホームでの行事に参加してかわりを持っている。入院で退所となった利用者の面会に行ったり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得ながら会話の中から一人ひとりの思いや意向を確認している。意思表示の困難な利用者は表情や行動から把握する様に努めている。	入居前に調査しアセスメントを実施している。現在の利用者はほぼ言葉で意思表示ができるため、日頃の会話の中などで聞き取り把握している。うまく言葉にできない利用者へはその時の状況や表情、行動から汲み取り支援している。帰宅したいと強く希望し不穏になる利用者に対しても、本人の気持ちに寄り添い、家族の協力も得ながら落ち着くように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前アセスメント(自宅や利用するサービス機関での)を行い。また、ケアマネからの情報収集し、入所後も会話の中から収集する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な1日の流れがあり、活動を行うが、心身の状態を考慮しそれなりに対応し無理強いはいはしない。又、日々の支援で出来ることを見出し発揮できる環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録や職員からの意見、本人家族の思いや意見を反映させ、問題や変化が発生した場合のケアについて、又、職員が疑問に思っている事を毎朝の申し送りで話し合い本人や家族に確認し現状に沿った介護計画を作成している	入居時や介護認定更新時にアセスメントを実施している。職員は利用者1～2名を1年に1回交代で担当制にしている。介護記録や職員からの聞き取りで半年に1回モニタリングを実施、原案を作成後、利用者・家族・介護職・管理者・ケアマネ・外部サービス利用時にはサービス担当者を招集し担当者会議を開催している。月1回の職員会議でケアプランの点検も行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録(24時間)に食事、水分、排泄、睡眠、服薬、介護計画の遂行状況、バイタル、身体状況を記録し、始業時に申し送りを行い、情報を共有し、介護計画や評価に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に受診は家族が対応する事になっているが体調不良時、家族での対応が難しい場合や緊急時等は、園長や管理者が病院受診同行している。又、家族に支援が得られない入居者には一緒に買い物に出掛けたりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公共の施設があり、四季の花々や野菜、沖縄独特の植物があり時折り散歩している。初詣や浜下りの場所も地域内にあり季節の行事も安全に楽しく行なっている。最近は新型コロナウイルス感染防止にて外出を控えている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの掛かり付け医に家族と一緒に受診する。バイタル表と情報提供書(家族へ説明)を提供し、その用紙に医師のコメントが有ったり、病院からの情報提供書、口頭で家族から説明を受ける。必要に応じ管理者が受診に立ち会う事もある	利用者と家族の希望に沿ったかかりつけ医を受診し、基本は家族が受診付き添いを対応しているが、家族対応が困難な場合や必要時には職員や病院受診付き添いのフォーマルサービスを活用し、医療面の支援ができています。受診内容は口頭や情報提供書として共有され、職員へは申し送り時に情報共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師や訪問看護を受けている入居者もないが、異変などの場合、隣接する特養の看護師にみて貰い助言を得、受診などに繋いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院での環境変化により混乱が起きない様に見舞いを行い、病棟の看護師との情報交換、病状の把握、ケースワーカーとの情報交換を管理者で行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、当施設には看護師が不在により、重度や週末ケアが出来ない状況を説明し、そのような場合は退所の方針である旨、説明し了承を得ている	事業所は終末期ケアは行わない方針で、契約時に説明している。重度化した場合は同法人の特別養護老人ホームへ紹介する等の支援をしている。必要に応じて、同法人内の看護師が助言や観察を行なっている。職員は重度化ケアの研修を定期的に行い、メンタル面での配慮や知識を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の職員研修で消防隊員指導の下、救命蘇生法を一人ひとり実践し、AEDの操作も学んでいる。グループホームにも設置されている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特養、居宅事業所、庶務の協力を得、日中や夜間を想定した防火訓練を年2回(1回は消防立ち合い)実施している。地域の方の参加もあり一緒に消火器訓練を受けています。グループホームだけの自主防火訓練(年2回実施)。沖縄県広域地震・津波避難訓練にも地域方1名が参加し、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間想定と夜間想定避難訓練の実施と、災害時における7日分の備蓄品の確認ができた。 2年前から防災避難訓練時に隣のマンション住人の参加があり、地域からの協力体制を築いている。また、利用者を近隣のホテルまで避難する訓練も行い、防災への意識を高めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでも法人の職員研修で「マナーと接遇」を学ぶ機会があり、常日頃から一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない様、言葉や態度に気を付けて支援している。個人情報保護方針や利用目的については家族に説明し同意を得ている	法人内の研修計画で、毎年プライバシーに関する研修が開催され、研修内容は職員全員で情報共有をしている。日々のケアにおいても自分の親と思い尊厳を意識した言葉かけや態度に気を付けてケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い利用者には耳元で優しく声掛けし、思うように言葉が出ない利用者には慌てないでゆっくり落ち着いて話すように声かけ、自分の思いや感情を表現し、自己決定出来る環境づくりに務めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れを持っているが、一人ひとりの心身状態や思いを考慮し柔軟に対応する。(その日の状態で散歩や運動、入浴など柔軟に対応する)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診などや外出時はお気に入りの服を本人と一緒に選んだり、初詣や祭り等季節の行事のある時はお化粧をしておしゃれを楽しまれる様支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の特養厨房で調理された物を、利用者と職員で盛り付け一緒に食事を摂るようにしている。苦手な食べ物は代替えで提供し、週に1回は利用者の好きな菓子パンが朝食に出ている。食器洗いや野菜のこしらえ等も職員と一緒に手伝っている。年に3回程皆で昼食の1品やおやつメニューを考えて下準備からホットプレートで焼くまで役割分担している。皆で一緒に楽しく	感染症予防の為、現在は職員と一緒に食事はしていないが見守りの中、テレビや音楽をかけ食事を楽しめるように支援をしている。以前はボランティアが園庭で栽培した野菜を食事にも活用していた。テレビの料理番組を視た利用者の要望したおやつを当日と一緒に作る等柔軟な取り組みも行なっている。利用者は食器洗いや盛り付け等、残存機能を活かす場にもなっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録し状況把握に努めている。飲み込みの悪い利用者にはトロミを使用し、咀嚼の悪い利用者には刻み食を提供。糖尿病や肥満、心不全の入居者にはカロリーや水分を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声掛け、誘導を行い、出来る事は本人にやってもらい出来ない部分を介助している。理解の乏しい利用者も焦らず本人のペースで行い、義歯は夜間洗浄液につけ汚れや臭いを予防している		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が困難な方も含め日中は、全員(9名)トイレで排泄行っている。、排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い失敗が無いように支援している。出来るだけ綿パンツの使用を心掛けている。	全利用者が日中はトイレでの排泄を行い、排泄チェック表を活用することで3名以外の方は綿パンツにパッドを使用することができている。また、3名の方はリハビリパンツを使用。夜間はポータブルトイレを使用、2名の利用者はトイレでの排泄ができるように工夫し、排泄の自立に向けた支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分150cc提供、1日の水分摂取量1500ccを目標にし、牛乳、ヨーグルト、玄米を提供。散歩、体操など体を動かし、排便-2日目は冷たい牛乳を提供し、腹部マッサージを行っている。慢性的に便秘傾向にある方は主治医と相談し排泄チェックをもとに緩下薬で調整している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週3回だが、外出等、必要時に対応する事もある、入浴を嫌がる利用者には時間帯をずらしたりタイミングを見て無理強い無く、翌日に回したり、午後を午前に行うなど柔軟に対応している。個別の入浴剤を使用し好きな音楽を聞きながら入浴を楽しめる様に支援している	基本的に週3回の入浴支援を行っている。入浴チェック表を活用することで利用者の拒否の状況や入りやすい時間を工夫している。また、拒否が強い場合は職員を変えて声かけ誘導する方法や入浴日以外の日に対応することで利用者の気持ちを損ねない支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムや体調、希望を考慮し昼間の休息や睡眠がとれるように配慮している。昼間は出来るだけ活動して頂き、夜は良眠できるように努めている。主治医の了解の元、寝る前の薬の時間をずらすなど工夫している。馴染んだ寝具を使用したり、照明、入口のドアの開閉等環境を整え安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に変更がある場合は、申し送り帳へ記入し職員間で共有している。配役薬は準夜帯でセットし深夜帯、朝薬服薬時に早番の職員でWチェックを行い呉薬の予防に努めている。ケースごとにも説明書を入れ常時確認することが出来る。服薬で疑問の場合は、薬局や主治医に随時確認している	服薬支援を安全に行うために準夜勤の職員が薬のセットを行い、セットされた内容を夜勤者が確認、服薬時の職員が再度確認するというトリプルチェックを行なっている。また、薬情報は職員が確認できるように一か所にまとめてあり、薬の変更時にも申し送り時に情報共有している。	安全に服薬するための体制は整っていたが、服薬支援に関するマニュアルの確認ができなかったため、業務の効率化と事故防止に努めたマニュアルの整備が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者より好きな歌を聞き歌詞をそろえ、時間を見つけては皆で歌っている。趣味活動での習字、踊りなどで生きがいを図っている。タオルたたみ、チリ箱つくり、食器洗いなど無理のない様に出来る範囲で力を発揮してもらっている。本人の嗜好品も家族からの差し入れ等があり、楽しみ事や気分転換が出来る様支援している		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩、外気浴は欠かさず行っている。初詣や家族と一緒に浜下りなど全員参加で外出する機会を設けている。定期的に自宅のある公民館での生デイに職員と一緒に出掛けたり、職員とのミニドライブや家族との外出支援に努めている。家族との外出が困難な利用者は家族の了解を得て管理者と一緒に出掛け外出支援を行っている。現在はコロナで外出出来ず。	前年度に比べてコロナ禍の為、外出の機会が減っているが、日々の近隣への散歩や敷地内での外気浴を行っている。また、病院受診時にドライブをして帰ってくるなどの工夫も行っている。平常時は、海の駅などへ行き天ぷらを購入するなど楽しみのある外出支援を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に本人、家族に確認し、希望と能力に応じて支援する様にしている。現在は所持はしている3人の利用者のお金を管理者が預かり必要物品等購入している。他の利用者は家族対応にて物品購入や外出時に本人の嗜好品を購入している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話で話せるように支援している。家族にも協力を得て不穏時に電話し家族の声を聴き落ち着ける様に支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり明るく、フローは広くバリアフリーになっている。天気の良い日は園庭で体操や歌などを皆で歌いコーヒーを飲みながら、おしゃべりをしたり和やかに過ごしている。園庭散歩をしながら季節の花々や野菜を見る事が出来る	食堂兼居間は天窓があり広さが十分に確保されていて、共有スペースで季節ごとに飾りつけを変え季節が感じられるように工夫されている。窓からは花や植物が植えられている園庭が見え、鑑賞することで気持ちのリフレッシュも行える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ホールで新聞を読んだり、気の合った利用者同士を相席にしお喋りを楽しまれたり、レクを教え合ったりする場面があります。好きな時に一人でのんびりソファーに座ったり、利用者同士おしゃべりをしたり、家族の面会時に雑談が出来る様工夫している		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の使い慣れた家具や馴染の物を持参される様お願いしている。孫の手作りの作品や家族写真などを飾ったりして居心地良く過ごせる様に工夫している。CDやテレビをかけ居室でくつろぎながら過ごしている利用者もおり内地の家族から花の宅急便が届く事もある	各居室には使い慣れた家具や家族の写真、家族から届いた花が飾られている等、居心地の良い居室になっている。コロナ禍においてなかなか家族が面会できないため、家族が準備したテレビ電話が可能なアレクサが置いてある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下等に手すりを設置し、玄関、居室、トイレ、浴室がバリアフリーになっている。トイレの表示や居室の室内灯等安全な環境づくりに努めている。洗濯物は入居者が個人個人で干せるように物干しスタンドやハンガーを利用する等工夫している		

目標達成計画

作成日: 令和 3年 1月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		安全に服薬するための体制は整っていたが、服薬支援に関するマニュアルの確認ができなかったため、業務の効率化と事故防止に務めたマニュアルの整備が望まれる。	安全に服薬が出来て体調面が良く日常生活が穏やかに過ごす事が出来る。	・安全に服薬介助出来るようにマニュアルを職員と一緒に話し合い作成し共有する。 ・配役薬は、準夜帯でセットし深夜帯、朝薬服薬時に早番の職員でダブルチェックを行い誤薬の予防に務めている。	0ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。